

豊かな文化と自然のもと、世界中から人々が集う、「ほんもの」に出会う 京都 ~5000万人感動都市へ~

1 特区により目指す目標

- 文化的・精神的な充実感の提供と地域経済の活性化で、日本を元気に！
- 京都の都市特性を發揮した「旅の本質」を堪能する新しい観光の姿を提案！

2 目標のために達成すべき課題

■ 観光スタイルの質を高める

名所を足早に見て回るのではなく、じっくり滞在し、奥深い京都の魅力を五感をもって自ら体感できる観光を提供

■ 観光都市としての質を高める

誰にでも、いつでも、奥深い京都の魅力を堪能してもらえるように、市民がおもてなしの心をもって観光客を迎えるとともに、快適な受入環境を整備

■ 精神的充足を求める時代に応える和の文化の発信

京都でしか得られない「ほんもの」の魅力に触れ、日本文化の源を確認することができる観光を提供

■ 日本の成長を牽引する観光立国への貢献

日本文化の拠点であり、わが国を代表する国際的な観光地として、観光立国を先導し、地域経済を活性化するとともに、国際相互理解を増進

人に出会い、風景に出会い、心打たれる出来事に出会い、
—そして新たな自分自身に出会う。

3 京都市が有する特性

「歴史都市」...全国の国宝20%、重要文化財の15%を占め、社寺と二条城の14件が世界遺産

「宗教都市」...精神文化の拠点、こころのふるさと

「文化芸術都市」...茶道、華道、香道、能、狂言、雅楽、食文化、京料理など多彩な和の文化

「ものづくり都市」...伝統産業から先端産業まで、それらを融合した「知恵産業」の創造

「大学のまち・学生のまち」...38の大学、短期大学が集積、人口の1割にあたる約14万人が大学生

「国際観光都市」...年間約5千万人の観光客、うち外国人観光客約200万人

「環境先進都市」...京都議定書誕生の地、環境モデル都市

4 課題についての解決策

1 世界の人々が日本文化の神髄や美しい町並みを求めて集う国際観光拠点を形成

- (1) 京都に集積する文化的資産の保全・継承と創造的活用
- (2) 美しい町並みと歴史的風土の保存・活用、自然景観の保全・再生
- (3) 新しい京都の魅力「京都岡崎」の創造

2 世界の芸術家、文化人、研究者や職人が自由に集い、学び、はばたく文化自由都市を創造

- (1) 若手から円熟の巨匠まで、国際的な文化芸術創造拠点を形成するための取組を推進



解決策1 世界の人々が日本文化の神髄や美しい町並みを求めて集う国際観光拠点を形成

(1) 京都に集積する文化的資産の保全・継承と創造的活用

取組内容

① 京都の歴史や文化を象徴する、文化的・景観的資産である隠れた建築物や庭園を、有効に活用しながら保存・継承する仕組みを構築します。

② 市内に約48,000軒存在する京町家等は、京都の景観の重要な構成要素ですが、空き家が増え、相続や維持管理の問題等で継承が困難なために毎年約2%が消失しています。京町家の保全・再生を図るとともに、京町家旅館を始め、レストランやアトリエなど創造的な活用を促進します。

規制改革(○)税財政支援(●)

●文化財に準じた相続税, 固定資産税等の税制優遇措置

●適切な管理を条件とした京町家に対する相続税の納税猶予措置

●景観整備機構が交付する京町家等の改修の助成金を税法上の収入としない措置

○旅館業法の構造設備基準の緩和



<京町家の中の坪庭>



<改修により簡易宿所として活用されている京町家>

取組内容

③ 京都のシンボルの1つである「京の舞妓」が存在する京都の花街の町並みを保全し、伝統芸能の存続を図るため、歌舞練場や茶屋の建替え、外国人観光客向けの改修等に対する支援を推進し、花街の伝統文化を守りつつ、外国人観光客等にその魅力を紹介する取組を推進します。

④ MICE開催に当たり、寺院神社、庭園、二条城、博物館、美術館などの文化財を主会場、レセプション、エクスカージョンなどで活用するなど、文化的資産を最大限に活かした京都ならではの取組を推進します。

⑤ 訪日動機として「ショッピング」をトップに上げる外国人観光客の利便性向上のため、京都市内で免税店の普及促進を図るとともに、伝統産業をはじめとする京都の特産品の免税対象の拡大を図ります。

規制改革(○)税財政支援(●)

- 歌舞練場や茶屋の建替、外国人観光客向けの改修に係る登録免許税を減免
- 茶屋の伝統を継続するための相続税の減免

○ 文化財保護法に基づく手続の簡素化・迅速化等

- 免税店の登録要件緩和
- 対象品目の拡大
- 限度額の引下げ



<国立京都国際会館>



<平安神宮での新能>



<二条城を活用した茶席>



<外国人観光客が購入したい品目
第1位の日本茶と第9位の日本酒>

(2) 美しい町並みと歴史的風土の保存・活用, 三山景観の保全・再生

取組内容

① 京都の山紫水明の自然環境が形成する歴史的風土を守るため、歴史的風土特別保存地区内の田園景観保全や、買入地における森林管理道路の整備、歴史的風土に親しめる遊歩道の整備など森林景観形成のための管理・活用を促進します。

② 歴史的景観を阻害している極めて大きな要素である電柱や電線類をなくすため、伝統的建造物群保存地区、世界遺産や観光地周辺において無電柱化を集中的に進めます。

③ ナラ枯れ、マツ枯れの大発生を受けた京都三山の森林景観再生のため、病虫害の防除対策を重点的に実施し、四季の彩りを感じさせる「四季・彩りの森 復活プロジェクト」を推進します。

規制改革(○)税財政支援(●)

●買入地の森林景観形成のための財源措置
●田園景観保全のため稲作の作業環境整備に対する支援制度の創設

●道路管理者への助成制度の拡充
●電柱の撤去等への助成制度の創設
●コンパクトな地上機器等の技術開発への財政支援
●舗装等のグレードアップに対する財政措置の拡充

○ナラ枯れ、マツ枯れ伐採時の地権者同意に係る規制緩和



<嵯峨野歴史的風土特別保存地区>



<花見小路における無電柱化と石畳舗装>



整備前



整備後

<産寧坂における無電柱化の取組>

(3) 新しい京都の魅力「京都岡崎」の創造

京都市と岡崎地域のエリアマネジメント組織「京都岡崎魅力づくり推進協議会」の連携を中心として、「優れた都市景観・環境の将来への保全継承」、「世界に冠たる文化・交流ゾーンとしての機能強化」、「更なる賑わいの創出」を図ります。そのための取組の一部として、総合特区制度を活用し、次の取組を進めます。

取組内容

- ① 東山山麓の優れた庭園群を保全・継承し、公開の機会を創出します。併せて、ミュージアム、ギャラリー、MICE関連施設として活用する仕組みを構築します。
- ② 世界一流のオペラをはじめ多様な舞台芸術の開催や、MICE開催が可能な施設として、京都会館の再整備を進めます。

規制改革(○) 税財政支援(●)

- 文化財に準じた相続税、固定資産税等の税制優遇措置
- 社会資本整備総合交付金の補助率及び用途の拡大



<歩いて楽しい神宮道のイメージ>
(「岡崎活性化ビジョン」より)



<琵琶湖疏水の水を取り入れた無鄰菴庭園>
(造園家 小川治兵衛による作庭)



優れたデザインの近代建築物が集積する岡崎地区

解決策2 世界の芸術家、文化人、研究者や職人が自由に集い、学び、はばたく文化自由都市を創造

(1) 若手から円熟の巨匠まで、国際的な文化芸術創造拠点を形成するための取組を推進

取組内容

① 国内外の志のある人々に、オペラなどの舞台芸術や伝統芸能をはじめさまざまな日本の文化を、一流の芸術家や伝承者から学ぶ機会を提供し、若手アーティストにとっての登竜門となる事業を京都会館や京町家などの施設を拠点として実施します。

② 京料理を学びたい世界中の人々を受け入れ、本場の料理店で働きながら修行する場を提供する「京料理塾」を実施し、本格的な京料理を世界に向けて発信し、日本料理の市場を拡大します。



<日本料理店で修行する外国人シェフ>

③ 「京都フィルム・オフィス」においてロケ支援を充実し、海外からの映画撮影の誘致を推進するとともに、映画、マンガ、アニメなど日本の誇るコンテンツ分野での高度な若手人材の交流を促進します。

規制改革(○) 税財政支援(●)

● 社会資本整備総合交付金の補助率及び用途の拡大



<現在の京都会館と整備イメージ>

○ 働きながら日本料理を学ぶためのビザの要件緩和



<京都国際マンガミュージアム>

○ 映画撮影時の爆発物の取扱いに係る規制緩和

○ 外国人映画スタッフ・クリエイターの入管手続きの簡素化

数値目標

目標年次：2014年

- ・京都で感動した観光客の数（年間入洛観光客数×感動があった人の割合）

目標：5000万人 ← 現状：3895万人（H22年）
（4,955万人×78.6%）

「5000万人感動都市」～すべての観光客に感動を与え、京都ファンにします～
観光客数の5000万人を維持しつつ、その中で京都において感動があった人の割合を100%に近づけることで、「5000万人感動都市」を達成

- ・観光消費額

目標：7000億円 ← 現状：6492億円（H22年）

- ・年間入洛外国人観光客数

目標：400万人 ← 現状：203万人（H22年）

- ・コンベンション年間開催件数

目標：250件 ← 現状：157件（H22年速報値）